

件

薩參三二九

十四日午前十時亞港ニ於テ行政引渡ノ調書ニ署名スルト同時ニ左ノ通り布告セリ

軍ハ大正十四年五月十五日迄ニ北樺太ノ北緯五十一度十分以南東經百四十二度三十分以西ノ地方ヨリ其配兵ヲ撤去シ該地方ノ行政權ヲ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ当該官憲ニ引渡シ其占領ヲ解除シ茲ニ本年一月二十日ノ日本国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約關係議定書（甲）第三条ニ基ク日本軍隊ノ撤退ヲ完全ニ終了セリ本職ハ此機會ニ於テ更ニ北樺太ノ將來ヲ祝福シ且兩國間ニ於ケル善隣の相互關係及經濟的協力ノ益々鞏固ナランコトヲ切望シテ訣別セントスルモノナリ

發送先 内閣、外務、海軍及省内

（付記）

五月十八日付參謀總長通報參一發第一八一号

北樺太ノ占領解除及ビ撤兵ノ完了ニ關シ通報ノ件

參一發第一八一号

（五月二十日接受）

大正十四年五月十八日

事項一三 日ソ外交關係ノ開始

1 大使交換關係

四〇六 一月三十日

出淵外務次官
アブリコソフ書記官 會談覺書

在東京旧露国大使館引渡問題等ニツキ出淵次

官ト旧露国大使館アブリコソフ書記官トノ

會談ニ關スル件

付記一 一月二十三日付在本邦旧露国大使館アブリコソフ書記官ヘノ通告案

二 アブリコソフ書記官ヨリノ申入レニ對スル
回答案

（極秘）

大正十四年一月三十日出淵次官在東京旧露国大使館書記官「アブリコソフ」ノ來省ヲ求メ今回ノ日露協定成立ニ伴フ在東京旧露国大使館引渡問題等ニ關シ會談シタル際「アブリコソフ」ハ同大使館保存書類中ニハ東支鐵道南線讓受及松花江航行權問題ニ關スル日露交換公文中大正六年十

一三 日ソ外交關係ノ開始 四〇六

殿

通報

薩哈連州派遣軍司令官ハ五月十四日迄ニ薩哈連州ノ占領解除及陸軍部隊ノ露領撤去ヲ完了シ十六日其隸下部隊及運輸部出張所全員ト共ニ無事内地ニ帰還セリ

四〇五 五月二十九日

在アレクサンドロフスク島田總領
事代理ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

北樺太革命委員會ノ職務執行ニ關スル件

第七三号

北樺太受領全權委員會ハ五月十五日以降其全權ヲ北樺太革命委員會ニ引渡スヘキ旨革命委員會ハ同日ヲ以テ職務執行ヲ開始スヘキ旨亞港海關ハ十六日より事務ヲ開始シ北樺太占領中輸入サレタル外国商品ニ對シ消費稅關稅ヲ徵收スルコトナク封緘ヲ施シ及登錄ヲ行フヘキ旨十五日正午ヨリ電報ヲ受付クヘク書留普通郵便物小包ノ取扱ヒ郵便爲替ノ事務ハ十六日より開始スヘキ旨十六日以降北樺太ニ於テ「ソヴィエット」通貨ヲ流通セシムヘキ旨夫々公布セラル

參謀總長 河合 操

一月二十二日付本野外務大臣聲明書ノ正本アリ其ノ副本ハ當時北京駐露國公使ニ送付シタルカ右在東京旧露国大使館ニ現ニ保管中ノ日本側聲明書正本ハ來ルヘキ同大使館ノ引渡ニ當リ之ヲ勞農側引繼委員ニ引繼クトモ又ハ其他如何様ナリトモ日本政府ノ意向通り取扱フコトトシ差支ナキ意向ヲ漏ラシタリ然ル処本件ニ關シ當時露国側ヨリ日本政府ニ提出セル「クルペンスキー」大使署名ノ聲明書正本ハ帝國外務省ニ保存セラレ居ルヲ以テ大正六年十一月二十二日日露間ニ本件ニ關スル協定成立シタルノ事實ハ其後露国側ニ於ケル本件書類取扱振ノ如何ニ依リ之ヲ動かスヲ得サル所ナルノミナラス更ニ進ンテ我方トシテハ本件協定ノ存スル事實ハ可成確然タル方法ニヨリ勞農政府ニ公知セシメ此ノ事實ヲ利用シ今後露国側トノ間ニ我方ニ有利ニ事態ヲ導クコト得策ト認メラルルニ就テハ前記「アブリコソフ」申出ニ對シテハ在東京旧露国大使館ニ保管中ノ東支鐵道南線讓受及松花江航行權問題ニ關スル大正六年十一月二十二

日付本野外務大臣声明書正本ハ爾余保存書類ト同シク労働側引継委員ニ引継カシムルコトトシ尚右公文引継ノ事実ヲ明確ナラシムル為引継ニ当リテハ引継目録中ニ特ニ前記声明書ノ名称及調印日付ヲ記載セシムルコトニ取計ハシムル様「アプリコースフ」ニ申入ルルコトト致度

(欄外註記)

二月五日旧露国大使館財産引継準備ノ為検分ノ際川角通訳官ヨリアプリコースフニ申入レ其ノ同意ヲ得置タリ

(付記一)

一月二十三日付在本邦旧露国大使館アプリコースフ書記官ヘノ通告案

日露条約調印ニ付在本邦旧露国大使館アプリコースフ氏ニ為スヘキ通告案(前段口頭後段文書)(二月三十日通告)今般帝国政府ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦トノ間ニ国交ニ関スル基本条約ノ調印ヲ了シタル所同条約ハ批准後始メテ効力ヲ発生スヘク右批准ノ時期ニ就テハ未タ予想シ得サルモ或ハ不遠其ノ運ニ立到ルヤモ測リ難キカ免ニ角右条約批准完了ノ上ハ帝国政府ハ「ソヴィエト」連邦政府ト正式ニ国交ヲ開始スルコトナルヘク而シテ条約中兩締約国ハ他方ノ大使館及領事館ニ属スル動産及不動産ニシテ

自国ノ領域内ニ現存スルモノヲ相互ニ引渡スコトヲ約シ居ルヲ以テ右条約ノ効力発生ノ上ハ或ハ直ニ在本邦旧露国大使館ノ財産引渡ニ就キ前記措置ヲ必要トスヘク尚旧露国大使館員ノ待遇モ従来通継続シ難キニヨリ右ノ次第ヲ予メ茲ニ通告スルト共ニ過般貴下ヨリ申入レラレタル在留露国避難民保護ノ件ニ関シテハ当方ニ於テ労働政府ヲ正式ニ承認シタル欧羅巴諸国ニ於ケル実例ヲ参照シ左記ノ通決定セルニ付右併テ回報ス

左記

- 一、帝国政府ハ旧露国官憲ノ発給シタル書類例ヘハ旅券其ノ他ノ査証ノ効力ヲ認メス
- 二、帝国ノ領域内ニ在留スル露国避難民ノ代表機關ニ対シ帝国官憲トノ連繫ヲ取ルヘキ公的性質ヲ認ムルヲ得ス
- 三、帝国政府ハ国際法及帝国法規ノ定ムル処ニ從ヒ在留露国避難民ヲ取扱ヒ保護ヲ加フヘシ

(付記二)

アプリコースフ書記官ヨリノ申入レニ対スル回答案

帝国政府カ労働政府ヲ正式ニ承認シ其ノ代表者ニ対シ本邦駐在ヲ認ムル場合在留露国避難民ニ対シ諸外人同様帝国政

府ニ於テ法律及官憲ノ保護ヲ与ヘ此等避難民ヲシテ労働政府ノ代表者ニ服従シ且直接又ハ間接之ニ倚ルノ止ムナキニ至ラシメサラシコトヲ切望スル趣ヲ以テ希望条項客月三十日付覚書ヲ以テ御申越ノ処既ニ労働政府ヲ承認シタル諸外国ノ右ニ対スル措置振ヲ見ルニ

(イ)旧露国政府及其ノ代表者並領事官ヨリ露国避難民ニ発給セラレタル一切ノ書類殊ニ旅券、入国、居住、査証等ニ対シ其ノ効力ヲ認メス労働政府ヲ認メサル露国避難民ニ対シテハ国際連盟ノ決議ニカカル身元証明書ヲ発給シ居

リ
(ロ)慈善団体ノ如キハ之ヲ別トシ多数ノ国ハ露国避難民カ其利益保護ノ為「オルガニゼーション」ヲ設置シ直接在留国政府ト連絡ヲトルコトヲ承認セス

(ハ)露国避難民ノ権利保護ハ普通国際私法上ノ原則ニヨルカ又ハ特ニ労働政府ヲ認メサル露国避難民ニ就テハ無国籍人ノ取扱ヲナシ在留国ノ法律ヲ適用シ居レリ

(ニ)労働政府ヲ承認セル列国ハ旧露国大使館及領事館建物カ旧露国政府ノ所有ニ属セルモノナリシ場合ハ之ヲ其ノ法律上ノ継承者ト認メタル労働政府ノ代表者ニ引渡シ居

レリ

就テハ帝国政府ニ於テモ目下北京ニ於テ行ハレ居ル交渉ノ結果労働政府ヲ正式ニ承認スルコトナル場合ハ前記諸点ニ関シ他国ト同様ノ措置ニ出ツル考ニシテ殊ニ在本邦旧露国大使館及領事館建物ニツキテハ其場合貴方ニ対シ引渡ヲ求ムルノ止ムヲ得サル事態ニ立至ルコトト思考セラルルニ付右ニ御了知ノ上何時ニテモ立退キ得ル様準備置相成様致シタシ

(欄外註記)

広田欧米局長ノ「回答ノ時期ニ就テハ尚考慮ヲ要スヘシ」トノ註記アリ

四〇七 二月二十一日

チチエリンソ連邦外務人民委員ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日ソ基本条約ヲ批准セシ旨ソヴィエト政府ヨリ

リ通告ノ件

Moscow, 1.26 P.M., Feb. 21, 1925

Received, 7.00 A.M., Feb. 22, 1925

February twentieth Soviet Government ratified convention embodying basic rules relations U.S.S.R.

Japan.
Bringing this to Your Excellency's knowledge, I take this opportunity for expressing firm belief that friendship between our peoples being consolidated by this convention shall further develop and deepen on basic principles laid down in Convention.

Tchitcherine.

Minister Foreign Affairs Shidehara,

Tokio.

四〇八 二月二十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

カラハンヨリコップソ連邦駐日大使ノアゲレ
マン取付ケ方依頼アリタル件

第一九二号

(二月二十七日接受)

往電第一八九号批准通知ノ際「カラハン」ハ露国側ニテハ最初ノ駐日大使ニ就キ調印後本日迄色々物色シタル結果外務委員部参与官會議議員「ヴィクトル・レオンティエヴィッチ・コップ」(Victor Leontievitch Kopp, Member of Collegium of the People's Commissariat for Foreign Affairs)ヲ全權大使ニ任命スルコトニ内定シ同人ニ対スル

日本政府ノ「アグレマン」取付ケ方訓令アリタルニ付本使ヨリ然ルヘク取次キアリタキ旨ヲ依頼シ尚右「コップ」氏ハ現職ニ在ル事既ニ二ケ年ナルモ其ノ以前在独通商代表ノ首席委員タリシコトモアリ外交官トシテ充分ノ資格ヲ有シ居ル旨ヲ付言シタリ本使ハ之ニ対シ速ニ政府ニ取次キタル上回答アリ次第通報スヘキ旨答ヘ置キタルニ依リ右御詮議ノ上何分回電アリタシ

四〇九 二月二十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

在中国ドイツ公使ノコップニ関スル情報報告

ノ件

第一九八号

(二月二十八日接受)

二月二十七日独逸公使本使ヲ来訪シ日露条約批准終了ニ付祝意ヲ述ヘタル後露国側大使ハ既ニ人選アリタルヤヲ尋ネタルニ付本使ハ曩ニ「ヨツフェ」及「カラハン」ノ駐日大使ノ噂ニ関シ同公使ヨリモ意見ヲ洩シ呉レタル事モアリ今回ノ決定ニ付テモ独逸ニ居リタル事アル關係上同公使ニ於テ何等承知セルコトモアルヘシト思考シタルヲ以テ実ハ秘密ノ話ニテ未タ他言シ得サル処ナルモトテ往電第一九二号

「カラハン」内密ノ申出テノ次第ヲ秘密トシテ話シタルニ同公使ハ「コップ」ハ以前ヨリ露国ノ戦時委員トシテ独逸ニ駐在シ當時俘虜事務以外種々交渉事件モ鮮カラサリシニ拘ハラス同人ト独逸外務省トノ關係モ極メテ円滑ナリシ趣ニテ當時露西亜局長トシテ「コップ」ト接触ヲ保チタル「マルツァーン」カ其後外務政務次官トナリ自分ハ同時ニ經濟次官タリシ關係上「マルツァーン」ヨリ屢々「コップ」ノ話ヲ聞キタル次第ニテ「マルツァーン」モ同人ニ対シ極ク好感ヲ有シ居リタリ從テ駐日大使トシテ至極適當者ナラント思考スル旨語リタリ御参考迄

四一〇 二月二十八日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

佐藤臨時代理大使任命ニツキカラハントノ折

衝結果報告ノ件

第二〇一号 極秘

(三月一日接受)

再電左ノ通り

第一八五号ノ一 至急極秘

往電第一七七号ニ関シ

二月二十五日「カラハン」ハ宮川ヲ經テ佐藤公使ニ対スル

一三 日ソ外交関係ノ開始 四一〇

便宜取扱ヒ方莫斯科ニ電報シタル所右ト行違ヒニ莫斯科ヨリ佐藤氏ノ任命ニ対シ何等異議アル次第第二ハアラサルモ日露間多年ノ懸案解決セラレ条約締結トナリ兩國ノ關係ニ新時代ヲ画スヘキ国交回復ニ方リ僅ニ臨時代理大使ノ交換ヲ以テ満足スルカ如キハ右ノ新時代ニ相応セサル措置ト謂フヘク仏国ノ如キ単ニ承認通告ヲ以テ露国ト国交ヲ回復セル国ニアリテモ已ニ大使ヲ派遣シ居ル今日日本ニ於テモ此際直ニ大使ヲ任命アリタク莫斯科ニ於テモ目下折角駐日大使ノ選任中ナルニ就キ右莫斯科政府ノ希望帝國政府ニ伝達方依頼シ来レリ右ニ対シ宮川ハ日本政府ニ於テモ日露国交ノ重大ナルニ鑑ミ追テ正式大使ヲ任命セントスル意向ナルコト何等疑ヒナシト信ス右ハ佐藤氏ヲ臨時代理大使トシテ派遣セントスルニ看テモ明カナルヘシ国交回復ノ当初ニ方リ臨時代理大使ヲ交換スル例ハ古来其例アリ現ニ英國ハ露国ト今猶代理大使ヲ交換シ居ルニアラスヤ殊ニ佐藤氏ノ臨時代理大使任命ニ関スル帝國政府ノ内意ハ已ニ二月十八日ヲ以テ貴方ニ内報シ右ニ対シ閣下ハ何等御異存ナキ趣ニテ又莫斯科ヨリモ今日迄何等異存ノ趣通報ナク日本政府ニ於テハ佐藤氏ノ任命ハ勿論臨時代理大使派遣ニ関シテモ貴方ニ

於テ同意セラレタルモノト思考シ居ルモノト信スル所莫斯科ノ意向トシテハ必ス正式大使ノ派遣ヲ必要トシ臨時代理大使ノ任命ハ不可能ナリトノコトナリヤ

編註 本電後段見当ラズ

四一一 三月一日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

コップノ経歴報告ノ件

第二〇六号

(三月二日接受)

往電第二〇五号ニ関シ

莫斯科ヨリ左ノ通回電アリタル旨三月一日露国大使館ヨリ通報アリ

「ビクトル・レオンティエヴィッチ・コップ」(Victor Leontievich Kopp) ハ一八八〇年「ヤルタ」(Jalta) 市(南露「クリミア」半島)ニ生ル瑞西ニ於テ大学ヲ卒業ス一九一八年在伯林勞農大使館参事官一九一九年ヨリ一九二一年迄在伯林勞農代表(往電第一九八号ノ俘虜委員ハ此ノ期間ノ事ナルヘシ)一九二二年芬蘭通商条約締結首席委員同年莫斯科軍縮會議(露国及「バルチック」諸国間)露国側委員長代理一九二三年以後外務人民委員部参与官會議委員

ノ点ハ成ルヘク速ニ話合ヲ付クルコトト為シタキ考ナリ又先方ヨリ派遣スヘキ大使館及領事館ノ員數ハ国際間ノ通例ニヨルヘク從テ多數国間ニ行ハレアル限度ニ於テ先方ヨリ人員ヲ派遣スルニ異存ナキモ余リ多人数トナルコトハ我方國論ヲ刺激シ好マサル結果ヲ惹起スル虞アルニ付其含ニテ適宜「カラハン」ニ懇談シ置カレタシ

四一三 三月六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

即時正式大使交換ヲ希望セルソ連側提議ニ対

スル日本政府ノ意向照会ノ件

第二一七号

三月五日「カラハン」「シェンシェフ」ヲ宮川ノ許ニ遣ハシ二月二十五日申入レタル即時正式大使交換ニ關スル露国側提議(往電第一八五号)ニ対シ日本政府ノ意向今ニ判明セス且本件ト密接ナル關係ニ在ル「コップ」ノ任命(往電第一九二号)ニ対スル「アグレマン」ノ諾否ニ付テモ同様回答無キ折柄莫斯科ニハ日本外務次官カ駐露大使ノ任命ヲ見ルハ北薩哈噠撤兵完了後ナリト語リタル旨ノ報道伝ハリタル為今回右二件ニ關スル日本政府ノ意向至急問合セ電報

一三 日ソ外交関係ノ開始 四一三 四一四

四一二 三月二日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

ソ連邦内ニ設置スベキ日本領事館ノ數等ニツキ先方ノ意向打診方訓令ノ件

第一三六号

我方ニテハ国交恢復ノ今日速ニ浦潮總領事館ヲ正式ニ執務セシメ且重港及「ハバロフスク」ニ總領事館ヲ「オハ」ニ重港總領事館ノ分館ヲ又「ペトロパウロフスク」「ブラゴヴェシチェンスク」尼港及「オデッサ」ニ各領事館ヲ開設シ度キ希望ナルカ露国側ニテハ右ニ付何等異存ナカルヘシト思考スルモ先方ノ意向承知シタキ旨「カラハン」ニ申入レラレ且追加予算トシテ今議會ニ提出スル必要モアルニヨリ速ニ回答アリタキ旨申添ヘラレタシ

又我方ニテハ露国側カ我方ノ在露領事館ノ數ト略同數位迄ハ其領事館ヲ設置スルニ異存ナキ意向ナルカ右話ノ序トシテ先方ニ於テハ本邦内ノ如何ナル地点ニ其ノ領事館ヲ設置セムトスル意向ナリヤ問合セラレタシ

次ニ露国通商代表ノ資格特權並右特權ヲ享有スヘキ通商部員數等ニ付テハ既ニ各国ニ先例モアルコトナレハ何レ此等

方訓電アリタルニ付右東京ニ電照方取計ハレ度キ趣本使ニ傳達方ヲ依頼セリ就テハ本件何分ノ儀至急回電アリタシ
(編註) 尚宮川ヨリ外務次官カスノ如キ談話ヲ為シタリトハ信セサルモ莫斯科ヨリノ電報ニハ何等如何ナル機會ニ於テ述ヘラレタリト記載シアリヤ又莫斯科ヘハ何処ヨリ斯ル報道伝ハリタルモノナリヤト尋ネタルニ対シ「シェンシェフ」ハ其点何等明示シ能ハスト答ヘタル趣ナリシモ宮川ノ得タル印象ニ依レハ右ハ「スロパツク」ヨリ電報アリタルモノト思考セラル由ナリ

編註 「為シタルコトナシ」トノ出淵勝次外務次官ノ欄外記入ガアル

四一四 三月六日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

コップ大使任命ニツキ上裁ヲ經タル旨通報ノ件

第一五二号

貴電第一九二号ニ關シ

「コップ」本邦駐節「ソヴィエト」連邦全權大使ニ任命ノ件本月四日上裁ヲ經タルニ付其ノ旨「カラハン」ニ申入レ

ラレ度

四一五 三月十一日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

本任大使ノ任命遅延ノ事情ニツキカラハンニ

説明方訓令ノ件

第一五九号 至急極秘

貴電第二一七号ニ関シ

一、「コップ」ニ対スル「アグレマン」ハ既電ノ通
二、貴方ヘ転電ノ答ナル在波蘭公使発本大臣宛來電第五五号ニ依ルモ露国側ハ頻リニ本任大使ノ莫斯科派遣ヲ熱望シ居ル処右ニ対シテハ我方ニ於テモ成ルヘク早目ニ駐露大使ヲ任命スル意向ヲ有スル次第ナルモ目下在露大使館開設ニ関スル經費ハ來ル四月一日ヨリ始マル大正十四年度予算トシテ議會ノ協賛ヲ求ムル手續中ニシテ右予算案ハ異議ナク議會ヲ通過スル見込ナルモ国内法規ノ關係上大使ノ任命ハ少クとも四月ニ入ラサルヲ得サルニ付右事情ヲ篤ト「カラハン」ニ説明セラレ大使着任ニ至ル迄ノ一時的代理大使タル佐藤公使ニ対シ速ニ「ヴィザ」ヲ与フル様至急「カラハン」ヨリ莫斯科ニ稟請スル様申入レ

四一六 三月十二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

条約關係事務以外ノ日ソ間交渉ハカラハンヲ

通ジルコトナクモスクワニ於テ行フ方有利ト

ノ意見具申ノ件

第二三三三号

(三月十三日接受)

曩ニ「カラハン」ヨリ日露間大使交換迄ハ兩國ノ交渉ハ総テ從來通り当地ニ於テ行ヒタキ趣申出アリタル關係モアリ現在帝國政府ヨリ莫斯科政府ニ申入ルル事ハ万本使ヨリ同氏ニ申入レ居ル有様ナル処最近「カラハン」ト莫斯科外務部間トニハ何等意思ノ疎通ヲ欠クニ非サヤト思考セララル節アリ三月七日宮川カ「コップ」ノ事ニテ「カラハン」ヲ往訪シタル際同氏ハ往電第二二一号記載ノ如ク漁区競売地變更問題ニ言及シ「チチェリン」ナレハ自分ヨリ稟請ノ事ハ直ニ採用スル例ナルニ同氏ハ目下「チフリ」ニ開催ノ連邦中央執行委員會會議ニ赴キ不在ノ為メ万事思フニ任セサルハ遺憾ナリト語り宮川ヨリ「チチェリン」ノ不在中ハ何人カ其事務ヲ代理スルモノナリヤト尋ネタルニ「カラハン」ハ西洋方面ハ「リトウイノフ」東洋方面ハ「ロトシテ

一三 日ソ外交関係ノ開始 四一六 四一七

ラレ結果電報アリタシ

三、尚ホ政府ハ曩ニ駐露大使トシテ貴官ヲ推薦スルコトニ一応内定シ追テ貴官ノ御内諾ヲ得タル上ハ直ニ「ソヴィエト」政府ノ「アグレマン」ヲ求ムルコトニ準備ヲ整ヘタル処其ノ後貴官ノ御容態經過ニ顧ミ今暫ク御快癒期日ノ見込ヲ大体確カメ得ラルル迄本件ノ進行ヲ差控フルノ必要ヲ認ムルニ至リタル次第ニシテ要スルニ右進行ノ遅延ハ政府ニ於テ駐露大使ノ人選ニ特ニ重キヲ置キ最適任者ヲ得ムトスル苦心ノ結果ニ外ナラス然ルニ「モスコウ」ニ於テハ我方ノ真意ニ誤解ヲ抱クモノノ如ク察セララルニ付以上ノ内情ハ寧ロ腹藏ナク「カラハン」ニ打明ケ「モスコウ」ノ誤解ヲ解クヲ適當ト思考ス就テハ貴官ヨリ右然ルヘク「カラハン」ニ内話セラレ度

四、駐露大使任命ノ時期ニ関スル政務次官ノ議會ニ於ケル答弁ハ五月中旬撤兵完了頃ニハ利権ニ関スル細目協定ヲ莫斯科ニ於テ開ク必要上遅クモ其ノ頃ニハ我方大使ノ莫斯科ニ在任スルヲ必要ト認ムトノ趣旨ニ外ナラスシテ北樺太撤兵完了後始メテ駐露大使ノ任命ヲ為ストノ意味合ニ非サルニ付右併セテ「カラハン」ヘ説明シ置カレタシ

イン」臨時代理シツツアリト語り更ニ宮川ヨリ曩ニ東方電報ニ駐日大使ノ候補者トシテ呼声高シト伝ヘラレ閣下ニ於テ然ル事無シト否定サレシ「ロトシテイン」ナル可シト反問シタルニ「カラハン」ハ隱シ切レサル不快ノ面持ニテ然リト答ヘ頻ニ同人ノ如キ駐日大使タラントスルハ(心外?)ナリト云フカ如キ態度ヲ示シタル趣ニテ「カラハン」「ロトシテイン」間ニハ地位争奪其他ニテ個人的ニ余リ良好ナラサルニ非サヤト推察セラレ其結果「カ」ノ莫斯科ニ対スル請訓(脱)的ニ取扱ハレ「カ」亦莫斯科ノ斯カル空氣ヲ承知シ我方申入ノ希望等モ強ク支持スル事ナク請訓スル事トナリ從テ回訓遅延勝チトナルノミナラス往々我方ニトリ万全ナル回答ヲ得ルコト能ハサル結果トナルニ非ラサルカト察セラルルニ付二瓶、佐々木書記官等莫斯科着ノ上ハ条約自体ニ関スル事務以外ハ直接莫斯科政府ニ交渉セシメラルル事却テ簡便且有利ト思考セララル卑見御参考迄

四一七 三月十三日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

駐ソ大使推薦辞退ノ内意申進ノ件

第二三五号 極秘 (三月十四日接受)

貴電第一五九号ニ関シ

御来示ノ(三)及(四)ハ直ニ「カラハン」ニ申入ルコトト致シタシ(三)ハ篇ト拝読シタルニ駐露大使ノ人選ニ関スル今日迄ノ経過ヲ「カラハン」ニ申入ルヘキ旨ノ御訓令ニシテ右訓令ヲ執行スルニ於テハ本使ニ於テ駐露大使タルコトヲ御受シタル結果トモナルヘキ処末タ内諾ヲ求メラレサルニ際シ進ンテ御受ケスルカ如キ態度ニ出ツルモ面白カラサルノミナラス仮令御来示ノ(三)カ右ト兼テ本使ノ内意ヲ問合サレタル御趣旨トスルモ目下ノ事情上甚タ年遺憾御受致シ難キニ付折角ノ御推薦ハ感謝ニ堪ヘサル処ナルモ此場合「カラハン」ニ対シテハ前記ノ通り(二)及(四)ノ外猶帝國政府ニ於テ銳意人選ニ努力中ナル旨ヲ付言スルコトト致シタキニ付御含置ヲ請フ

四一八 三月十四日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大使交換ニ関スル日本政府ノ回答及ビ佐藤公

使ニ対スル査証発給等ニツキカラハントノ会

談結果報告ノ件

第二四一号(至急) (三月十五日接受)

貴電第一五九号ニ関シ

宮川ハ本使ノ命ヲ受ケ御訓令ノ趣往電第二三五号ノ趣旨ニ依リ申入レノ為三月十四日正午「カラハン」ヲ訪問シ即時本任大使交換ニ関スル莫斯科政府ノ提議ニ対スル日本政府ノ回答到着シタルニ付右披露ノ為参リタリト述ヘタルニ「カラハン」ハ如何ニモ極メ込ミタル風ニテ芳沢公使ナルヘシト口走リタルニ依リ宮川ハ新聞ニモ右様伝ヘラレ私自身モ然ラント思考シ居タル処政府ヨリノ電報ニハ末タ氏名ノ指定ナク大使ノ人選ニ付テハ目下鋭意努力中ナリトアルノミニテ貴方ニ於テハ嘸物足ラサルヤニ感セララルル次第ナランカ日本政府ニ於テハ成ルヘク早目ニ大使ヲ任命スル意向ナルコトハ二月二十五日閣下ヨリ本件提議ノ際自分ノ私見トシテ開陳シ置キタル通ニシテ何等疑ナシトテ貴電第一五九号(二)及(四)ノ事情ヲ篇ト説明シ佐藤公使ニ対シ速ニ査照発給スル様莫斯科ニ稟請アリタキ旨申入タルニ「カラハン」ハ自分ヨリハ二月二十五日貴官ト会谈ノ際日本政府トシテハ永ク代理大使ヲ以テ間ニ合ハサントスル意向ニ非スト信スル旨ノ貴見及貴見ト同様ナル自分ノ意見ヲ莫斯科ニ電報シタル結果莫斯科ニ於テモ安心シ佐藤公使ニ査証ヲ与

フル意向ナリシカ如キ処莫斯科ニハ在波蘭「ボイコフ」ヨリ同人カ佐藤公使ト会谈ノ結果得タル印象ニ依レハ同公使ノ代理大使ハ長期ニ亘ルモノノ如シトノ報告アリタル上一方東京ヨリモ日本外務次官カ駐露大使ノ任命ハ撤兵完了後ナルヘシト声明シタル旨ノ報道アリ旁莫斯科ニ於テハ日本政府ノ意向ニ付「ミスリード」セラレ遂ニ佐藤公使ノ査証請求ニ対シ即時正式大使交換ノ露国側提議ニ対スル日本政府ノ回答アル迄暫ク猶予ヲ請フ事ト成リタル次第ナリ右ハ決シテ査証ヲ拒絶シタル訳ニ非サルニ付誤解無カラシコトヲ請フ最近「コップ」ニ「アグレマン」ヲ与ヘタル後ノ事ナラント思考セラル)自分ヨリ更ニ莫斯科ニ対シ佐藤公使ニ査証発給方請訓シタル処今回右ノ趣在波蘭「ボイコフ」ニ訓令済ナル旨回電アリ今回ハ間違ヒ無キニ付右東京ニ電報セラレタシト述ヘタル趣ナリ尚「カラハン」ハ「コップ」ノ任命ハ正式ニ成立シタルモ其ノ日付不明ナル為目下問合セ中ナルカ判明次第正式ニ御通知ニ及フヘク同氏ノ莫斯科出発ハ「チチュリン」ノ同地帰来カ本月十六日ナルニ鑑ミ早クモ本月二十日以前ナル事ナカルヘシト語レル由ナリ

次ニ宮川ヨリ領事館開設地ニ関シ莫斯科ヨリ回訓ノ有無問合シタルニ対シ「カラハン」ハ電報到着シタルモ脱字等アリ訂正ノ上今明中書面ヲ以テ御通知スヘキモ大体莫斯科トシテハ差当リ互ニ三ヶ所(日本ハ浦塩「ハバロフスク」亜港?露国ハ長崎、大連、京城?)ニ領事館ヲ設置スルコトトシ其他ノ分ハ大使着任後ノ話ト為サンコトヲ希望スルモノノ如シト述ヘ陸海軍武官ニ関シテハ自分一個ノ考トシテハ何等反対ノ理由ナシト思考スルモ末タ回訓無キニ付回訓有次第御挨拶ニ及フヘシト答ヘタル趣ナリ貴電第一六八号ハ本件御訓令執行後接到シタルモ大体以上ニテ尽シタリト思考ス

四一九 三月十五日 在ポーランド国佐藤公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連邦赴任予定ニツキ報告ノ件

第六〇号 (三月十六日接受)

貴電第三八号ニ関シ

本省ノ御都合モアル可キコトナルニ付此際種々ノ行懸ヲ捨テ莫斯科出張ノ件改メテ御受ケスルコトトシ取急キ出発ス可シ右ニ付十九日当地発二十日「リガ」一泊上田ト打合せ

ノ上二十三日莫斯科着ノ予定同地「ホテル」名(編註)尚
同地着後「ソヴェット」官憲トノ折衝上心得置度ニ付往電
第五五号乃至第五七号ノ件「カラハン」ニ対シ何等御交渉
ノ次第アラハ其成行至急当地宛御電報ヲ請フ
本電貴電ト共ニ英、仏、独へ転電ス

編註 コニコロシア名ヲローマ字化シタ字句ガアルガ不正確ナ
ノデ不明トシタ

四二〇 三月十七日 太田警視總監ヨリ
若槻内務、幣原外務各大臣宛

東京府ガ保管中ノ露国大使館引渡シ完了セル

件

外秘第六一二号

大正十四年三月十七日

警視總監 太田 政弘

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

指定庁府県長官殿

露国大使館ニ関スル件

麹町区霞ヶ関所在露国大使館ハ客月十六日我カ政府ニ於テ

旧代理大使「アブリコーソフ」ヨリ引渡シヲ受ケタル後東
京府ニ於テ管理中同府ノ依頼ニヨリ所轄麹町警察署ヨリ常
時制服巡查三名ヲ派シ警戒中ノ処今回大使館開設準備ノ為
メ入京セル北京駐在同国大使館付一等書記官「ニコライ・
クツネツォフ」ニ対シ昨十六日午後二時三十分無事引渡シ
ヲ完了セルヲ以テ同時警戒ヲ解除セリ
右及申(通)報候

四二一 三月二十三日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

在ソ連邦日本大使館ノ開設報告ノ件

第一号 (三月二十四日接受)

本官上村官補、笹本書記生ヲ帶同シ二十三日莫斯科ニ着
Hotel Saroy ニ於テ在「ソヴィエト」連合国大使館ヲ開
設セリ

四二二 三月二十六日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連外務部首脳ヲ訪問ノ際得タル印象等ニツ

キ報告ノ件

第六号 (三月二十八日接受)

本官当地着任ノ翌日外務委員代理「リトヴィノフ」(「チチ
エリン」病氣引籠中両三日中面談ノ筈)「ロトシュテイン」
「コップ」等ヲ訪問セリ彼等トノ会談ニ依リ得タル印象御
参考迄電報ス

一、是等諸官及外務部官吏ハ勿論一般ノ輿論モ本使一行ノ
着任ヲ歓迎シ居ル様子歴然タルカ如ク到着ノ際ハ外務部
極東課員ノ出迎ヘアリタルニ過キササルモ待(遇)懇切ニ
シテ外務部訪問ノ際等モ頗ル鄭重ノ取扱ヒヲ受ケタリ

二、初度ノ訪問ニモアリ又本官ハ一時的代理ノ事故成ルヘ
ク混ミ入りタル問題ニ触ルルヲ避ケタキ考ヘナル所「リ
トヴィノフ」トノ会談中在東京露国大使館カ地震ノ損害
ヲ受ケタル外家具銀器大部分持去ラレ居リ此種道具類ノ
復旧丈ケニテモ可ナリノ金額ヲ要スヘキ所如何ニ外国大
使館カ不可侵ナリトハ謂ヘ帝政時代ノ旧露国大使館員カ
勝手ニ道具ヲ持出スヲ黙過シタル日本政府ノ態度ハ國際
法上果シテ妥当ナルヤ否ヤ疑ヒナキ能ハスト称シ諸諒交
リニ輕ク苦情申述ヘタルニ就キ本官モ態ト笑ヒ話ニ紛ラ
ハセ深入リスルヲ避ケ置キタリ本件ハ他日「ソヴェト」
側ヨリ何等申出スルヤモ計リ難シ

一三 日ソ外交関係ノ開始 四二二

三、「コップ」トノ会談ハ本官ニ最モ好印象ヲ与ヘタリ風
采態度共ニ批難ノ点ナク又本官ノ旧知タル波蘭公使ノ批
評ニ依レハ同人ノ人物技倆共ニ感服ニ値シ駐日大使トシ
テ確ニ適任ナリ尤モ事務上ノ交渉ニハ可ナリ深刻ナルコ
トアルモ同時ニ赤心ヲ以テ事ニ当ルノ風アリ信頼スルニ
足ルト謂ヘリ同人ハ之レ迄波蘭方面ノ主任タリ(シ)関
係上波蘭公使ハ夙ニ接触ノ機会ヲ有シタルニ就キ同公使
ノ觀察ハ大過ナシト信セラル

貴電第二号浦潮総領事館残務執行仮認可ノ件及ヒ貴電第
四号出漁者査証問題ノ件モ同人ニ申入レタル所直ニ引受
ケ解決ニ尽力スヘシト謂ヘリ但四月五日頃迄ニ出漁ヲ要
スル西南漁区行キ出漁者ノ數概略承知シタキ希望申出タ
ルニ就キ折返シ御電報ヲ請フ本官ノ考ヘニテモ「クズネ
ツォフ」ヲ臨時査証官トスルコト最モ便宜ト思考ス但函
館ニ出張セシムル必要無之ヤ

四、大使館ニ適當ノ家屋甚タ少ナク予想通り入手頗ル困難
目下折角搜索中旧在露大使館付属家具ハ全部盜難ニ逢ヒ
タル由ノ所追テ実情調査ノ為メ館員ヲ派遣スヘキヤ茲ニ
日露間基本条約付属議定書甲第七号ノ趣意ハ右家具類所

在不明ノ場合賠償等ヲ要求セラレサル御趣旨ナリヤ御回訓ヲ請フ

四二三 三月二十八日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

チチェリンガソノ初会談ニ於イテ日ソ提携ヨリ更ニ中国ヲ加ヘテ三国同盟形成ノ可能性ニ談及セル件

第一二号 極秘

(三月三十日接受)

往電第一〇号ニ関シ

「チチェリン」病氣全快ニ付二十六日始メテ訪問約一時間会談セリ彼ハ先ツ日露条約ノ成立ヲ衷心祝福シ国交回復ト共ニ第一ノ日本外交代表者ヲ迎ヘ得タルハ「ソヴエト」政府ノ大ニ欣快トスル処ナリトテ熱誠ナル歡迎ノ辞ヲ述ヘタル後最近東京市内ニ起リタル火災ニ対シ懇篤ナル見舞ヲ述ヘ且芳沢公使ノ病状ヲ尋ネ次テ在莫斯科帝国大使ノ人選ニ付本官ニ於テ何等承知シ居レリヤト尋ネタルニ付本官ハ四月ニ入ラハ急速大使ノ任命ヲ見ルコトト信スルモ帝国政府ノ為シツツアル人選ニ付テハ不幸未タ承知セスト答ヘ且本官ハ一身上ノ都合ヨリスルモ尚永ク当地ニ留マリ難ク大使

着任ト共ニ帰朝ノ許可ヲ得居ル旨付言シ置ケリ「チ」ハ更ニ進ンテ日露条約ニ依リ兩國接近ノ傾向ニ付腹藏無キ意見ヲ述ヘ自分ノ考ヘニテハ外交ノ中心ハ既ニ西ヨリ移リ太平洋ニ在リ日露ノ提携ハ自衛ノ見地上避クヘカラサル運命ニシテ他日支那ヲ加ヘ三国同盟ヲ形成スルニ至ルヘキコト必スシモ夢想ニ非スト信スル旨極メテ真面目ノ語氣ヲ以テ申述ヘタリ

右ニ対シ本官ハ政治問題ニ関シテハ本任大使來着次第外務大臣ノ意ヲ体シ改メテ貴委員ト意見交換ヲ試ムルコトト信セラレ一時の代表者ノ無責任ナル言辭ヲ弄スルハ成ル可ク避ケタキ考ナルモ本官一個ノ私見トシテハ極東ニ於ケル英米兩國ノ勢力ハ日本トシテ之ヲ蔑ニスルヲ得ス常ニ兩國勢力ノ消長ヲ顧慮シツツ自衛ノ策ヲ講シ均衡ヲ保ツニ腐心スルヲ要スル次第ニシテ支那トハ山東問題解決後誤解ヲ一掃シ頓ニ親密ノ度ヲ加ヘ得タリト雖不幸ニシテ近キ将来ニ於テ支那カ統一セラレ強國ノ班ニ列スルヲ見得可シトモ思ハレス支那ニ頼テ以テ英米ノ勢力ヲ減殺セントスルカ如キハ近ク之ヲ望ミ得可カラスト思考スル旨ヲ述ヘ暗ニ日露支三国同盟論ノ尚早ナルヲ付言シタル後尤日本ハ從來余リニ英

米兩國殊ニ後者ニ頼リ過キタル傾向アリ斯ハ米國ノ産業極度ニ発達シ貿易ノ組織亦完備セルカ為日本商人ニ取り取引甚タ簡易ナリシニ基ク処ナル可キモ斯クテハ經濟上一々米ニ依頼シ一朝事アル場合甘ンシテ其ノ意思ニ從ハサルヲ得サル可ク日本トシテハ如何ニスルモ西比利及支那各地ニ於テ原料ヲ輸入スルノ計画ナカル可ラスト思考スル旨申述ヘタル処「チ」一々之ニ首肯シ三国ノ提携ハ先ツ經濟上ニ其ノ基礎ヲ置キ延イテ政治的の團結ヲ形成スルヲ要ス可シト言ヘリ

以上会談ノ語氣ヨリ察スルニ日露条約成立當時露國新聞ニ三国同盟說ヲ盛ニ唱道シタルモ「チ」ノ諒解ニ基クモノニシテ彼ハ右同盟ノ必要ヲ固ク信シ且將來其目的ニ向ヒ漸次歩ヲ進メントスル決心ヲ有スルモノノ如シ(本件ニ関シニ十六日本官独逸大使訪問ノ際接待慰勞極メ密ニ日露接近ニ際シ独逸モ亦好意的の注意ヲ怠ラサルノ状ヲ窺知セシムルモノアリ尚同大使ノ言ニ依レハ「チ」ハ北京交渉ノ經過ニ対シ常ニ甚大ノ注意ヲ払ヒ条文ノ「レダクシヨ」迄自ラ手ヲ下シタル節アリトノコトニテ又仏國大使ノ本官ニ語ル処ニ依レハ同大使「チチェリン」ニ面会中偶然日露条約成

立ノ報ニ接シタル由ニテ其刹那ノ「チ」ノ喜ヒ正ニ言外ニ溢レタリトノコトナリ以上兩大使ノ言ハ彼カ如何ニ日露間國交回復ヲ熱望セシヤヲ想像セシムルニ足ル)尚「チ」ハ伊藤公ノ親(露)政策「ウィツテ」ノ極東政策等ニ関シ懷旧談ヲ述ヘタル後談十月革命當時ノ模様ニ移リ當時内田大使カ長ク「ウヲログダ」ニ留マリ進退ヲ決セサリシニハ莫斯科ニ於テ頗ル判断ニ苦メリト言ヒ且後藤子爵ノ近況ニ就キ尋ヌル処アリ最後ニ彼ハ日露相扶會ニ言及シ過般其ノ會頭ナルモノ日本ニ帰ル前自分ヲ來訪シ同會カ日露接近ニ尽力シタル手柄ヲ述ヘ立テ且是非彼ニ會員ニナリ呉ル様要請シタリトノコトニテ少シク内藤ノ態度ニ胡散ノ点アリ同會カ果シテ日本国内ニ於テ勢力アルモノナリヤ否ヤ疑ヒ初メタリト言ヘリ依テ本官ハ同會ノ成リ立ヲ熟知セサルモ左シテ重キヲ置カルル団体トモ思ハレス何レ本官自身ノ參考トモナルコトニ付東京ヘ問合セ真相御知ラセスヘシト答ヘ置ケリ就テハ同會ノ目的及近況並真面目ナル會合トシテ取扱フヘキモノナリヤ否ヤ御回電ヲ請フ

本電往電第六号ト共ニ在欧洲各大使、支那、波蘭、羅馬尼、瑞典、「チエツコスロバキヤ」、「リガ」ニ転報セリ

四二四 三月二十九日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

チチェリンヨリ芳沢公使ノ駐ソ大使任命ヲ希望スル申出アリタル旨報告ノ件

第一四号 極秘

(三月三十日接受)

往電第一二二六号「チチェリン」トノ会談中駐露帝国大使ノ人選ニ関シ同電報所載ノ外実ハ同氏ヨリ芳沢公使ノ任命ニ付本官ニ於テ承知スル処アリヤトノ質問アリタルニ依リ本官モ同公使カ駐露大使ノ第一候補者ナリトハ信シ居ルモ黒沢カ齎セル最近ノ情報ニ依レハ同公使ノ負傷ハ案外重態ニテ全治迄ニハ二三ヶ月ヲ要ストノコトニテ他方「ソヴィエト」政府ニテハ日本ノ急速任命ヲ切望シ居ラルル關係上病中ノ同公使ヲ任命スル訳ニモ行ク間敷旁々日本政府ニ取りテモ大使ノ銓衡ニハ大ナル困難アリト思考セラルル節アル旨答ヘタル処「チ」ハ更ニ同公使カ北京交渉中再三自己ノ責任ニ於テ「アドレフェレンダム」ニテ事ニ処シ難關ヲ切り脱ケタル態度ハ「ソヴィエト」側ノ大ニ多トスル処ニシテ將ニ同公使カ両国国交ノ恢復ヲ切望セラルル証左トナスヘク為ニ「ソヴィエト」政府ニ於テモ第一回ノ帝国

大使トシテ同公使ヲ迎ヘントスル希望甚タ切ナルモノアリ同公使ノ負傷ハ寔ニ懸念ニ堪ヘサルモ今主義上ノ問題解決ノ為メ直ニ同公使ノ任命ヲ見ルヲ得ハ健康上ノ理由ニ依リ赴任カ数ヶ月遅ルルハ已ムヲ得サル処ナリトテ打解ケテノ話アリ依テ本官ハ大使任命問題ニ関シテハ本官ハ全ク個人トシテノ利害關係ヲ有セス本官自身ハ未タ二級ノ公使ニ過キサル上家族の事情ノ為遠カラス帰京ノ必要ニ迫リ既ニ閣下ヨリ賜暇ノ御内諾サヘ得居ル有様ニ付本任大使ノ急速來任ヲ見ルハ本官ノ衷心希望スル所ナリ右様ノ次第二付「チ」氏ニ於テ希望セラルレハ欣然右「ソヴィエト」政府ノ御希望ヲ日本政府ニ取次クヘク且ハ芳沢公使トハ熟知ノ間柄ニ付同公使ノ為多少ニテモ役立ツヲ得ハ本官ノ真ニ本懐トスル所ナリト答ヘタル処本件ハ自分ノ同僚トモ篤ト打合せノ必要アルニ付一日ノ猶予ヲ得タル後何分ノ御返事致スヘシトノコトナリシカ越エテ二十八日極東課長ヘ面談ノ際「チチェリン」ヨリノ依頼ナリトテ其ノ前言ヲ繰返シ芳沢公使ノ第一回大使タルコトハ「ソヴィエト」政府ノ衷心希望スル所ニシテ今直ニ其ノ任命ヲ見ハ赴任ハ多少遅延スルトモ致方無之此ノ儀本官ヨリ日本政府ヘ然ルヘク取次カレタシ

ト申出テタリ右ニ関シ率直ナル卑見ヲ申上クレハ「ソヴィエト」側ニ於テ両国国交回復ヲ重要視スルコト今日ノ如ク

列国大使モ亦其重要ナル意義ヲ有スル我カ日本ノ代表者トシテ帝国使臣ヲ遇スルコト甚タ懇切ナル現下ノ状勢ニ於テ「ソヴィエト」政府ヨリ斯ク迄懇望ヲ受クル者芳沢公使ヲ措テ他ニ有之間敷又同公使ニ於テモ之ヲ受ケテ恥カシカラサル使命ト思考セラルル而已ナラス事情斯クノ如クナル以上他ニ何人ノ適任者来ルトモ「ソヴィエト」側ヨリハ当然一種ノ失望ヲ以テ迎ヘラルヘシ右ノ次第二付此ノ際特ニ同公使ヲ御選任相成リ健康快復ヲ待チテ赴任スル様取計ヲハルルコト最能ク帝国ノ利益ニ副ハルル所以ト確信ス人事ニ関シ甚タ差出テタル次第年ヲ右申進ス

尚当地ハ往年ト異リ外務部トノ往復モ仏語ヨリハ寧ロ英語ヲ便利トスル位ニテ交際社会モ英語殊ノ外目下ハ勢力アリトノコトニ付益々芳沢公使ノ為ニハ便利ナルヘク尚日常ノ生活モ左シテ不便ナク周囲ノ空氣寧ロ愉快ニテ何等不安ナシ

コップ大使ノ赴任予定及ビ資格ニツキ報告ノ件

第一八号 (四月一日接受)

在本邦「ソヴェート」大使「コップ」ハ四月八日当地発赴任ノ筈ナリト云フ同人ノ資格ハ全權代表ト称シ全權大使若ハ全權公使ノ称呼ヲ用イス一九一八年「デクレット」ヲ以テ外交代表ノ階級ヲ廢止シテ以來一般ニ外国ニ駐在スル自国代表者ヲ全權代表(露語「ウボルノモーチェンニー・プレスタビーチェリ」略語 upolpred)ト呼フモ任国ニ対スル關係ノ輕重ニ依リ其ノ待遇ニ相違ヲ来シ全權委任状ニハ全權代表ノ次ニ括弧ヲ以テ特命全權大使若ハ全權公使ト記入シ差別スル趣ナリ

尚外務部儀式局長ノ談ニ依レハ当国ノ主權ハ中央執行委員會ニアリ新任大使ノ携帯スヘキ御委任状ハ同委員會即チ會議団体ニ宛テラルヘキモノトス尤モ同委員會議長ニ宛テラルルハ差支ナキモ此ノ場合ニハ議長ノ姓名ヲ記入スルヲ避ケラレタシ這ハ中央執行委員會ハ同國憲法ノ規定ニ依リ四名ノ議長ヲ有スカ故ナリト

四二五 三月三十一日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

一三 日ソ外交関係ノ開始 四二六 四二七 四二八

四二六 四月七日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

正式大使任命ノ遅延ハ兩國關係ニ悪影響ヲ及
ボス惧レアル旨申進ノ件

第三一號

（四月八日接受）

往電第一四号ノ件折角御詮議中ノ事ト存スルモ長ク大使ノ
任命ヲ放置スルハ折角良好ナル關係ニ入りタル日露国交カ
重大ナル悪影響ヲ来スヘシト危惧セラルルニ付テハ御差支
ヘナキ限り御詮議ノ模様本官迄折返シ電報アリタク先方ヘ
ハ適宜本官ノ得タル私報トシテ通報シ安心セシムル様取計
ヒ度シ尙当国ハ仏、伊兩國トハ直ニ大使ヲ交換シ代理大使
ヲ置カサリシ由ニ付北京協定ノ際日露兩國間ニ最初ノ間代
理大使ヲ交換スル事ニ話合ナカリシモノトセハ「ソビエッ
ト」政府ニ於テ直ニ日本ノ派遣ヲ希望スルモ尤モノ次第ニ
付任命丈ケニテモ急速御実行ノ事最モ必要ノ御措置ト思考
ス

四二七

四月七日

在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

コップノ午餐招待ニツキ報告ノ件

第三二號

（四月八日接受）

六六二

Kopp ハ四月一日本官及館員四名ヲ午餐ニ招待セリ露国側
ヨリハ Tchichérine 病氣全快セサル為 Litvinov Aralob
及極東課長人事課長出席シタルカ孰レモ慰懃且ツ打解ケタ
ル態度ニテ日露国交ノ恢復ヲ喜フノ情歴然タルモノアリタ
リ当方ニ於テモ Kopp 出発前一行ヲ招待シタキ考ナリシ
モ「ホテル」ノ設備不完全ナルノミナラス市中ニ適當ノ
「レストラン」ナキ為其儘トナレルニ付右御含ミノ上同大
使本邦着ノ節可然御挨拶ヲ請フ

四二八

四月十一日

在ハルビン中村内務事務官ヨリ
広田外務省欧米局長他宛

コップノ連邦駐日大使ノ経歴通報ノ件

哈秘第一二〇号

（四月十八日接受）

日本駐劄「ソヴェト」連邦大使「コップ」

ノ経歴ニ関スル件

新任日本駐劄「ソヴェト」連邦大使「ウイクトル・レオン
チエウイチ・コップ」本月八日「モスコ」発赴任ノ途ニ
就キ哈爾濱通過不日東京着ノ筈ナルカ同人ノ経歴左ノ如シ

記

「ウイクトル・レオンチエウイチ・コップ」ハ政治的一般

ニ卓越セル経歴ヲ有ス一八八〇年十月二十九日「ヤルタ」
（「クリミヤ」半島ノ南海岸）ニ生ル一八九六年ニハ既ニ

労働運動ノ宣伝ニ従事シ各所ニ出張セリ一八八九年（九）「ハリ
コフ」学生政治運動ノ群ニ在リテ政治運動ニ努力シ遂ニ学
校放逐ヲ啗ヒタリ「エカチエリノスラウ」ニ於テ「ソシア
ルデモクラット」機関ニ働キツツアリシ際捕縛セラル裁判
決定前ニ逃走シテ外国ニ赴キ「イスクラ」社ニ入レリ

一九〇二年第二回露国共產党大会開會準備ノ為メニ窃カニ
露国ニ歸リ共產党運輸関係労働者ノ中央會議員トシテ同会
ニ出席セリ一九〇五年ノ終リニ窃カニ露国内ニテ職業組合
同盟ノ機関タル「プロフプレッス」社ニ働ケリ次テ再ヒ外
国ニ赴キ欧州戦ノ初期ニ帰還セリ動員令ニテ召集サレテ戦
闘部隊ニ編入セラレテ戦線ニ赴キ間モナク捕虜トナリ一九
一八年ニ解放セラレタリ露国ニ帰還スルト同時ニ連合露国
国民外交委員會會議ニ勤務スルコトナレリ

初メ在柏林「ソウエト」政府公使ノ参事官ニ任セラレ一九
一九年六月ヨリ一九二一年五月迄独逸ノ連合露国代表タリ
一九二一年末「モスコ」ニ歸リ数回重要ナル政治的的使命
ヲ受ケタリ一九二二年「モスコ」軍備縮小會議ノ副議長

一三 日ソ外交関係ノ開始 四二九

タリ又芬蘭トノ通商条約締結ニハ代表使節トシテ其任務ヲ
果セリ

一九二三年六月十八日以後ハ「ソウエト」連邦国民外交委
員會委員タリ而シテ今回在日本「ソウエト」連邦大使ニ任
セラレタルモノナリ

通報先 警保局長外一四

四二九

四月十八日

在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛（郵送電報）

ソ連事情調査ノ為リガ出張所ノ公使館昇格ヲ

至人員増加ノ必要性申進ノ件

第五八号

（五月十九日接受）

当館執務事項ニ関シテハ本任大使来着ノ上實際ノ事情ニ応
シ方針ヲ立テラル儀ト存スルモ一般政治問題ノ研究以外
經濟財政社会軍事労働等各般ノ方面ニ亘リ其ノ組織傾向若
クハ活動ニ関シ調査研究ヲ進ムルハ何レノ場合ニ於テモ必
要ニシテ当国ノ如キ国家社会ノ組織絶對ニ西欧諸国ト其ノ
揆ヲ異ニスル国柄ニアリテハ各方面ヨリ充分ノ研究ヲ遂ク
ルニ非サレハ政治的關係ハ勿論通商企業上ノ交渉若クハ実
際上ノ仕事ニ当リ不測ノ故障ニ遭遇シ予期セサル不利益ヲ

六六三

蒙ル事アル可キハ想像ニ難カラス此故ニ大使館及事務所ノ設備完成セハ直ニ必要ノ人員ヲ集メ諸般ノ研究ニ当ラシムルヲ要スヘク而シテ之等研究ハ新旧法令ノ翻訳制度調査予算ノ研究外国貿易部及利権局ノ制度組織活動ノ研究等各種ノ具体的問題ニ関シ為サルヘキ処本省及「リガ」出張所トハ常ニ密接ナル連絡ヲ保チ同一事項ニ対スル研究ノ重複ヲ避ケ其ノ代リ調査研究ノ範圍ヲ出来ル丈ケ拡大スルニ心掛ケルヲ要スヘク且満鉄ニ於テモ重要ナル「ソビエツト」法令若クハ著書類ノ翻訳ニ従事シ居リ既ニ露国研究資料トシテ印刷ニ付シタルモノ多クアリ将来同会社トモ連絡ヲ着ケ同様ニ重ノ労力ヲ省ク様注意スル事必要ナルヘシ大使館付属調査部範圍ニ至リテハ予算上ノ關係ヨリ制限ヲ受クヘキモ實務上ノ見地ヨリ云ヘハ其ノ方面ニ趣味ヲ有スル書記官一名ニ露語ニ達者ナル高等官判任官兩参名ヲ付スル位ニテ差当リ事務ヲ開始シ得ヘシト思考セララル

然ルニ茲ニ特ニ御考量ヲ仰度キハ「ソビエツト」國ノ政治外交財政經濟若ハ社会上ノ問題研究上ノ当大使館ノ地位ニシテ換言セハ当大使館ハ此等諸問題ニ対シ適當ナル觀察判斷ヲ下シ得ヘキ地位ニアリヤ否ヤノ点ナリトス「ソビエツ

スルノ必要アリ

邊境諸國ニ於ケル露国研究ハ此点ニ於テ最も有意義ナリト云ハサルヲ得ス

邊境諸國中「ソビエツト」露国トノ交通ノミヨリスルモ亦露国人カ現今ニテモ好シテ赴ク避暑地タル關係ヨリスルモ「リガ」カ露国研究ニ最も便利ナル地点ナルヘキハ殆ト衆論ノ一致スル所ニシテ勿論芬蘭波蘭等ニテモ各自注意ヲ怠ラス常ニ形勢ノ推移ニ注目スヘキ儀ナカラ国内事情ノ研究ノ便ニ至リテハ「リガ」ニ如カス又有為ノ人員ヲ各地ニ散在セシムルハ人物經濟ノ点ヨリスルモ不利益ニシテ寧ロー地ニ集合スルニ如カス即チ「リガ」ヲ邊境諸國中ノ「ソビエツト」研究地トシ此ノ所ニ相当ノ人員ヲ集メ内外相俟テ諸般ノ觀察ヲ下シ且研究ヲ進ムルヲ要スルカ如シ「リガ」出張所現在ノ顔触ヲ見ルニ上田書記官ノ外泉副領事アルノミニシテ現ニ同書記官ノ従事シツツアル露国情報ノ蒐集及編纂ニテ手一パイナリ而シテ該露国情報ハ国内ノ重要ノ出来事ヲ継続的ニ記載スル点ニ於テ有利ノ参考材料タルハ言ヲ俟タス今後モ該情報ノ編纂ハ上田書記官ニ於テ引続キ之ヲ担任スル事最も希望セラルル所ナルモ此上更ニ研究ノ歩ヲ進メムカ為ニハ少クトモ今一名ノ露国ニ精通セル補助者

ト」国内出版ノ新聞雜誌其他各小出版物等ハ成程迅速且ツ潤沢ニ入手シ得ヘシト雖モ此等ハ皆政府若クハ共產党ノ統一アリ且ツ極メテ嚴重ナル監督検閲ノ下ニ發行セラルルモノニシテ一トシテ出版又ハ記事掲載ノ自由アルナシ加之G・P・Uノ干渉甚シク外國大使館員ハ素ヨリ普通ノ在留外國人ト雖モ一般露國人ト往復スルコト殆ト絶対ニ不可能ニシテ多少ニテモ外國人ト交通セル露人ハ直ニ投獄セラルルヲ常トシ之カ為メ露人ヨリ進ンテ吾人ニ接触シ来ルモノナキハ勿論外國人側ヨリモ相手ノ危險ヲ慮リ接近ヲ差控ヘ居レリスノ如キ事情ナルヲ以テ莫斯科ニ在リテ莫斯科ノ事情ヲ知ルコト難ク露人ノ心裡狀態傾向ヲ探ルニ由ナキ奇妙ナル現象ヲ呈シ外國人ハ僅ニ其見聞若ハ接触セル事實ニ依リ狀況ヲ判斷シ得ル狀態ニ在ルニ過キス而シテ斯ノ如キ判斷力時ニ正鵠ヲ得サルヘキハ已ムヲ得サル処ナリ尤モ国内ニ在リテ親シク事物ニ接スルハ狀況判斷上極メテ必要ニシテ此方面ヨリスル研究ハ勿論出來得ル限り之ヲ進ムルヲ要スヘキモ国内ヨリ見タル觀察ノミヲ以テ満足スルハ「ソビエツト」露国ノ現状ニ鑑ミ甚シク片手落ナリト斷言シ得ヘク即チ国内ノ研究ニ対シ国外ノ觀察ヲ以テ之ヲ調和補足

ヲ置キ且泉副領事ノ手代ヲモ必要トスヘク又後段述フルカ如キ當館トノ連絡事務缺掌ノ為メ露語研究ヲ兼テ有為ノ官補壹兩名ヲ同書記官ニ付スルヲ要ス可シ斯クシテ初メテ同出張所ヲ有意義ニ活動セシメ且内外呼応シテ露国研究ノ実ヲ挙げ得ヘシト思考ス

卑見吐露ノ自由ヲ与ヘラルレハ本官ハ右出張所ヲ「バルチック」三国ニ対スル我公使館ニ昇格セシメラルルヲ以テ最も機宜ニ適シタル処置ト思考スルモノニシテ斯ノ如ク為シ得ルニ於テハ三国ノ好感ヲ迎フルハ元ヨリ延テハ三国当局ヲシテ「ソビエツト」露国ニ対スル觀察又ハ情報等ヲ喜テ我ニ給セシメ得ヘク我方ノ利便トナル事尠ナカラサル可シ政治上ノ觀察ノ当否ハ別問題トスルモ兎ニ角「ソビエツト」国内ノ出来事ニ関シ最も多ク情報ヲ有スルハ此三国ナルヘク在莫斯科大使館カ監視付ノ下ニ得タル報道ヲ此方面ヨリ確認シ且補足スルノ利益アルヘシ斯ク看シ来レハ之等三国其レ自身ハ我ニトリ別段ノ重要サヲ有セサルモ公使館設置ノ從タル結果トシテ如上ノ利便アリトセハ之レ丈ニテモ既ニ公使館開設ノ値打充分ナリト思考セラルル今後数年若クハ相當長キ期間「ソビエツト」露国トハ表裏トモニ多クノ関

係ヲ有セサルヲ得サル破目ニアル帝国ニトリテハ公使館設置位ノ事ハ其ノ受クル利益ニ顧ミ比較的輕微ナル犠牲ト信ス尤モ之等三国トノ表向キ國際關係僅少ナルニ鑑ミ公使ヲ駐在セシムルハ必スシモ其必要ナカル可ク代理公使ニテ充分且或場合ニハ其方却テ便利ナルヤモ計リ難シト思考ス莫斯科哈爾濱間及莫斯科里賀間「クーリエ」便開設ニ關シテハ四月十五日付拙信機密第一号（里賀ヨリ米国經由便ニテ郵送ス）ヲ以テ卑見申進タリ尤モ莫斯科里賀間ノ分ハ貴電第三五号ヲ以テ既ニ御承認ヲ得タルニ付差当リ必要ニ応シ不定期ニ開始スルコトセル処里賀ハ當館種々書信及印刷物ノ取次所トシテタケニテモ相當事務増大スヘシ併シテ當國ニ於テハ税関ニ於テ開封セラルルコトナクシテ書籍印刷物等ヲ接手スルコト不可能ナル事情ハ既ニ往電第五六号ニテ申進タル通ナリ故ニ多少ニテモ機密ニ属スルモノハ里賀留置トシ同所ヨリ「クーリエ」便ニテ取寄スル外他ニ途ナシ若シ同地出張所ヲ公使館ニ昇格シ公使館トシテノ特權ヲ完全ニ享有セシメラレハ當館宛機密類ノ通過ハ勿論外國ヨリ輸入ヲ要スヘキ當館所要品ノ受取ニ關シテモ便宜ヲ得ルコト多大ナルヘク當館ノ立場ヨリシテ右昇格ハ希望ニ堪

第八三号

（五月三日接受）

「イズヴェスチヤ」ハ四月三十日「東ヨリノ光」ト題シ日本ニ於ケル「ソヴィエート」大使ノ歡迎及日本電通事件ニ關シ大要左ノ如キ社説ヲ掲ケタリ

駐日「ソヴィエート」大使カ日本ニ於テ受ケタル歡迎ニハ日本ノ各階級是レニ参加シ宛モ日露條約ノ demonstration タル感アリタリ労働者カ之ニ参加シタルハ勞農政府ニ共鳴スル為ナルモ其他ノ階級ハ日露條約ニ依リ極東ニ於ケル日本ノ地位カ安固ヲ加フルニ至レルカ為ナリ資本主義ノ日本ハ早晚太平洋ノ霸權ヲ争フヘキ時機ノ来ルヲ知ルト共ニ其ノ競争者カ實力資源ニ於テ自身ヲ凌駕スルヲ知ル米國ノ軍備拡張及日英同盟ノ廢棄ハ日本ニ不安ノ念ヲ起サシメ勞農露國ニ近ツキ一步ナリトモ其ノ地位ヲ安全ナラシメントスルニ至レリ勞農露國ハ斷乎トシテ其ノ權利ヲ擁護スルモ極東ニ侵略の意圖ヲ有セサルコトハ日本能ク之ヲ知ル之日露條約カ日本ニ於テ非常ナル満足ヲ以テ迎ヘラレタル所以ナリ日本ハ從來ノ反露政策ヨリモ平和政策ノ一層自國ニ有利ナルヲ自覺セリ是等ノ理由ヨリ日本ニ於ケル對露感情ハ頗ル良好トナリ今回ノ大歡迎トナリテ現ハレタルモノナリ

ヘサル処ナリ以上ハ本官当地出張ノ際里賀ヲ經由シテ實際ノ狀況ヲ見聞シテ適切ニ其必要ヲ感シタル処ニシテ当地着任後益々所信ヲ深クスル次第ナルニ付テハ公使館昇格ノ件ハ予算ノ關係上今直ニ実行スルコト困難ナルヘキモ来年度ノ予算ニハ計上セラルル様御考量願度且ツ右昇格ト否トニ拘ラス里賀出張所人員増加ノ件ハ至急御承認ノ上直ニ実行相成様致度シ右卑見申進ス

四三〇 四月二十七日

在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

コップ大使着京ノ際ノ歡迎ニツキソ連邦当局

ガ満足セル旨報告ノ件

第七六号

（四月二十八日接受）

「コップ」大使着京ノ際受ケタル盛大ナル歡迎ハ勞農政府ノ予想以上ナリシモノノ如ク同政府当局大イニ喜悅ノ色アリ同大使ヨリモ頗ル満足ノ趣電報アリタリト言フ

四三一 五月一日

在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

コップ大使歡迎及ビ電通事件ニ關スルイズヴ

エスチヤ紙ノ社説大要報告ノ件

右歡迎ト関連シ一小出来事アリ「コップ」氏ノ着京前日本電報通信ハ哈爾濱通信ニ依リ同氏ノ談ナリトテ「日露條約ハ一ノ紙片ニ過キス右ハ米國ノ承認ヲ促進センカ為ニ締結セルモノナリ」トノ電報ニ接シ之ヲ各新聞ニ配付セリ然ルニ右虚報ヲ登載セルハ一報知アルノミ且ツ電通社長ハ自ラ「コップ」氏ヲ往訪シテ遺憾ノ意ヲ表シ更ニ書面ヲ以テ右電報ノ誤ナリシコトヲ讀者ニ廣告シタルコトヲ通知セリ歐米諸新聞ハ吾人ニ對シ未タ曾テ斯ノ如キ誠意ヲ示シタルコトナシ日本新聞ハ之ニ依リ所謂先進國ニ對シ一ノ教訓ヲ与ヘタリ歐米諸國ニ於テハ虚報ヲ利用スルノミナラス自ラ之ヲ捏造ス英國ノ「ジノービエフ」書翰勃牙利ノ第三「インダーナショナル」訓令「ライプチヒ」ノ独逸「チエカ」ノ裁判ノ如シ然ルニ日本外務大臣ハ「コップ」氏ノ着京前事實無根ナリトシテ右ノ虚報ヲ打消シ且ツ入露査証ヲ拒絕セラレタル腹癰ニ斯ノ如キ挙ニ出タルモノナラント付言セリ「ブルジョア」政府ハ日本外務大臣ヨリ一ノ教訓ヲ得タリト云フヘシ此等ノ事實ハ日露將來ノ好關係ヲ示ス吉兆ト云フヘシ吾人ハ固ヨリ外交的辭令カ兩國間ニ存スル懸案ヲ解決スルノ保障タリトハ信セス然レモ吾人ハ日本国民カ

衷心日露兩國間ニ円満ナル關係ヲ結フノ必要ヲ感知シ居ルモノナルコトヲ信セント欲ス吾人ハ日本ノ正当ナル利益ヲ認メント欲スルモノナルカ日本モ亦吾人ノ正当ナル權利ニ對シ同様ノ態度ヲ執ルヘキヲ信ス斯ノ如クニシテ初メテ極東ノ暗雲一掃セラレ兩國間ニ円満ナル友好關係樹立セラルヘシ

英、仏、独、波蘭、里賀へ郵送セリ

四三二 五月二日 井上式部長官ヨリ
幣原外務大臣宛

本邦駐劄ソ連邦大使ノ信任狀捧呈ニ関スル件

付記 ソ連邦コップ大使信任狀捧呈ノ際ノ言上振訳文
式部送第五六二号

大正十四年五月二日

式部長官侯爵 井上 勝之助(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

ソヴィエト社会主義共和国連邦特命全權大使

信任狀捧呈ノ為謁見ノ件

本邦駐劄ソヴィエト社会主義共和国連邦特命全權大使ヴィクトル・レオンティエウイチ・コップ今般着任ニ付信任

相互關係ノ確立及維持ハ等シク此等使命ノ妥当ナル解決ニヨリテ得ラルルナリ

此ノ高尚ニシテ困難ナル使命ヲ解決ス可キ唯一ノ途ハ相互ノ信頼ヲ固メ深ク其ノ必要ト利益トヲ究メ且之カ忠実ナル協調ヲ遂クルコトニ存ストノ確固タル信念ヲ有スルニヨリ本使ハ「ソヴェト」社会主義共和国連邦政府ノ名ニ於テ確固トシテ迷フコトナク此ノ途ニ従フヘキ最モ熱心ナル準備ヲ表明ス

本使ハ光輝アル未来ニ導達スヘキ此ノ途上ニ於テ陛下ノ政府ヨリ各般ノ支持ヲ受クヘキコトヲ確信シ敢テ本使ノ重大ニシテ困難ナル使命ノ遂行上極メテ必要トスル信任ヲ本使ニ与ヘラレンコトヲ陛下ニ懇願ス

四三三 七月十四日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

チチェリンニ新任ノ挨拶ヲ為シ日ソ間ノ当面ノ經濟政治問題ニツキ会谈シタル件

第二六七号

(七月十六日接受)

本使着任ノ節直ニ「チチェリン」氏カ面会スヘキ旨伝言アリタルニ依リ十四日午後二時往訪先ツ新任ノ挨拶ヲナシ旅

一三 日ソ外交関係ノ開始 四三三

狀捧呈ノ為摂政殿下へ謁見ノ儀同大使ノ願出ニ依リ上奏相成候処来五日午前十時三十分謁見仰出サレ候

追テ別紙ヲ以テ御申越相成候本文謁見ノ節同国大使館一等書記官ニコラス・クズネツォフ外^(編註)二名随伴参内ノ儀御聴許相成候

編註 外二名トハ一等書記官ジョージ・アスタホフト日本語書記官ユーージェー・ス・スバルウインノコトデアル

(付記)

ソ連邦コップ大使信任狀捧呈ノ際ノ言上振訳文

陛下

「ソヴェト」社会主義共和国連邦中央執行委員會議長ノ信任ニヨリ日本国皇帝陛下ニ對スル全權大使ノ高位ニ任セラレタル本使ハ本使ニ負ハサレタル義務ノ大ナル歴史的重要サヲ完全ニ識認シテ之ヲ履行セムトス

久シキ中断ノ後ヲ享ケタル両大国ノ人民ハ其ノ國民的利益ト必要トヲ相互ニ了解ス可キ共通ノ鍵ヲ発見スルト共ニ經濟的協力ノ鞏固ナル基礎ヲ設定シ且其文化的創造ノ各方面ニ於テ相互ニ提携スヘキ要アリ

両國民ノ平和的發展並ニ広大ナル極東全域ニ於ケル平和的

行中ノ欽待ニ對スル謝意ヲ表シタル内「チ」氏ヨリ事務的ノ話ニ入り貿易代表ノ問題ニ付述フル処アリ本使ハ同問題ニ付テハ折角「コップ」大使ニ於テ努力中ニテ日本政府ノ考モ再三同氏ニ通シアル筈ナレハ之ヲ繼續セラレ然ルヘシト述ヘタルニ東京及当地双方ニ於テ解決ヲ試ミタシト述ヘタルヲ以テ然ラハ自分モ尚考究シ我政府ト相談スヘシト輕ク答ヘ置キタリ本件ニ付テハ我政府ノ意向「チ」氏ニ徹底シ居ラサル様感セラレタリ次テ同氏ハ兩國ノ經濟關係増進ノ希望ヲ述ヘ樺太利權問題ハ勿論西比利亞ノ利權ニ付テモ日本ト会谈スヘク漁業条約ハ直ニ商議ニ入ルヲ得ヘク通商条約ハ多少遅クルヘキモ是等ノ經濟問題ハ何レモ着々具体化シタキ旨述ヘタルヲ以テ右ハ当方ノ希望スル処ニシテ差当リ樺太利權ノ為ニ既ニ当業者代表到着セルヲ以テ先ツ之レヲ片付ケ度旨述ヘタルニ「チ」氏ハ其意ヲ諒シ右ニ付テハ「トロツキー」ヲ委員長トセル利權委員會ニテ管掌スヘキモ今回新ニ同委員ニ任命セラレタル「ヨッフエ」氏ヲシテ本件談判ニ当ラシムルコトトセリ

「ヨッフエ」氏ナラハ日本ニテモ善ク知り居リ万事好都合ナル可シト陳ヘ尚直ニ交渉ニ入ル可キ手順ニ付打合ヲナシ

次ニ「チ」氏ハ話頭ヲ転シ東京来電ニ依レハ英国大使ハ幣原大臣ト会談シ旧来ノ日英国交ヲ恢復シ露国ニ對抗セントスル提議ヲナシ居ル由ナルカ露国カ各地ノ国民の運動ニ同情セル為英國力其ノ属領及支那ニ於ケル利益ヲ脅威セラレ頻ニ欧米強國ヲ誘ヒテ「ユナイテッド、フロンツ」ヲ作ラントセルモ一モ成功セス遂ニ日本ヲ抱キ込マントスルモノナルモ日本ト露國ハ同シク亜細亞民族ニシテ互ニ親善ヲ結フヘキモノナリ云々ト述ヘタルニ依リ本使ハ私見トシテ日本国民ノ対支意見カ旧来トハ変化セルモ國家ノ生存ニ必要ナル既得利益ハ飽迄擁護スルノ方針ナルコト日英同盟廢棄ノ際ノ苦キ經驗ニ依リ素ヨリ國民ハ同盟復活ヲ考ヘ居ラサルコト等ヲ述ヘ其他ノ点ニ触レス聞流シ置キタリ又洩奇鉄道問題ニモ言及セルカ是亦輕ク接待^{アッ}ヒ置キタリ要スルニ此ノ会见ハ初対面ニモアリ且國書捧呈前ナリシヲ以テ深入リスルヲ避ケ一時間ニテ辞去セルモ「チ」氏トシテハ日本ニ對スル当面ノ問題ノ總テヲ曝ケ出シタルモノノ如シ在歐各大使、在支公使ヘ転電セリ

四三四 七月十四日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

タ「ベルフネウヂンスク」「イルクツク」(各都)「クラスノヤルスク」「ノボニコラエフスク」「オムスク」「スベルドロフスク」「ビヤトカ」「ヤロスラウリ」ニ於テハ夫々當該執行委員長幹部ヲ引率シテ歡迎ノ挨拶ヲ為シ殆ト異口同音ニ兩國間經濟關係増進ノ希望ヲ述ヘ殊ニ國境「マツエフスカヤ」駅及ヒ「チタ」「イルクツク」「スベルドロフスク」諸市ニ於テハ儀仗兵ヲ堵列セシメ軍樂隊ハ歡迎ノ曲ヲ奏シテ本使ノ行ヲ盛ニセリ勞農露國ニ於テ外國使官ノ來任ニ當リ斯ノ如キ盛大ナル歡迎ヲ為シタルハ未タ殆ト前例無キ趣ナリ尚勞農國境官憲ハ本使ト同行セル利權關係者ニ對シテ殆ト無檢査ニテ通關ノ便宜ヲ与ヘタリ

四三五 七月十八日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛

國書捧呈式ニ関シ報告ノ件
機密公第六号 (八月十四日接受)

大正十四年七月十八日

在ソヴィエト連邦

特命全權大使 田中 都吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

一三 日ソ外交關係ノ開始 四三五

本使着任ニ際シソ連政府ノ歡迎振り報告ノ件
第二六八号 (七月十七日接受)

勞農政府ハ本使今回ノ來任ニ對シ非常ノ用意ヲ示シ且歡迎ニ勉メタリ先ツ東支鐵道ハ莫斯科ト打合せノ上長春莫斯科間專用客車ヲ供シ在奉天哈爾賓齊々哈爾滿州里勞農領事ハ「カラハン」ノ電命ナリトテ夫々通過駅ニ本使ヲ迎送シ殊ニ在哈爾賓勞農總領事代理ハ盛大ナル宴會ヲ催セリ更ニ本月七日國境ニ於テハ莫斯科ヨリ派遣セラレタル迎接官「ジャーシャーマン」外務委員「チチェリン」ヲ代表シテ本使ヲ歡迎シ同十三日「ヤロスラウリ」ニ於テハ勞農外務部日本關係事務主任「コレニコフ」出迎ヲ為シ同シク外務委員ヲ代表シテ本使ヲ歡迎スルト共ニ北京ニ樹立セラレタル日露友交關係ノ増進ヲ希望シ且本使一行ト共ニ利權關係者ノ來莫セラレタルハ日露關係力愈々實務的時代ニ入ルモノナリト述フル処アリ莫斯科ニ於テハ儀式局長「フロリンスキー」ヲ初メ極東課長「メリニコフ」其他ノ外務官吏ノ出迎アリタル外儀仗兵ヲ「プラットフォーム」ニ堵列セシメ軍樂隊ハ歡迎ノ曲ヲ奏シテ本使ノ入京ヲ歡迎セリ其他沿道ノ地方農民モ本使ノ來任ヲ歡迎シ各地方ノ首都タル「チ

國書捧呈式ニ関スル件

國書捧呈ノ日取ハ御承知ノ通り最初本月十七日トノコトナリシカ本月十四日本使着任ノ当日連邦中央執行委員會會長「カリニン」急遽郷里ニ帰省スルコトナリタル趣ヲ以テ右日取ヲ翌十五日午後一時ニ繰リ上クルコトナリ同日午後零時四十五分外務部衛兵指揮官ノ正服ヲ着シタル外務部儀式局長「フロリンスキー」ハ「モーニング」ヲ着シタル同局員「ゲルシエルマン」ヲ帶同シ本使ヲ旅館貴賓館ニ出迎ヘ本使ハ儀式局ヨリ差廻シタル自動車ニ乘リ(儀式局長陪乘ス)館員ハ当方ニテ準備セル自動車二分乗(最初ノ一台ニ儀式局員分乘ス)シテ「クレムリン」内大宮殿ニ到ル車寄階段ニハ赤色ノ絨毯ヲ敷キツメ其兩側ニハ劍銃ヲ持セル赤兵數名ヲ配ス階段ノ上ニハ極東課長「メーリニコフ」日本事務主任「コレスニコフ」等ノ出迎アリ(孰レモ「モーニング」ヲ着ス)斯テ謁見ノ間ニ入ルヤ縞ノ背広ニ「ソフト」襟ヲナセル「カリニン」ハ連邦中央執行委員會書記「エスキーズ」(「ルバーシカ」ヲ着ス)外務委員「チチエーリン」(名譽赤兵ノ正服ヲ着ス)外務部参与「アラーロフ」外務部經濟法律部長「サバーニン」(孰レモ「モー

ニング」ヲ着ス）及「クレムリン」衛戍司令ヲ從へ本使ヲ引見セリ本使ヨリ別紙^(省略)甲号ノ通り「ヂスクール」ヲ朗読シ（儀式局員之ヲ露語ニ通訳ス）国書ヲ捧呈スルヤ「カリーニン」ハ親シク之ヲ受領シ外務委員ニ手交シタル後本使ノ「ヂスクール」ニ対シ別紙^(省略)乙号ノ通り露語ヲ以テ答辭ヲ朗読シ儀式局長之ヲ別紙^(省略)丙号ノ通り仏語ニ通訳セリ茲ニ「カリーニン」ハ前記労働官吏ヲ本使ニ紹介シ本使亦館員ヲ「カリーニン」ニ紹介セリ

「カリーニン」ハ本使一人ヲ隣ノ間ニ招キ「チチエーリン」ノ通訳ニテ約二十五分既電ノ如キ談話ヲナシタルカ右ニテ儀式ヲ終リ本使ハ午後二時往ト同様ノ順序ニテ旅館ニ帰還セリ尚當日ハ本使ノ同行セル館員一同大礼服ヲ着用セリ尚又本使及「カリーニン」ノ「ヂスクール」ハ孰レモ翌日ノ新聞ニ発表セラレタリ

追テ本使「ヂスクール」原案ニ Nations トアリタルヲ Peoples トシ Excellence ヲ削除シタルハ先方ノ希望ニ基キタルモノナルニ付右茲ニ申添ユ

四三六 七月二十三日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

困難ハ起ラサルヘシト思考スル旨ヲ答へ更ニ労働政府ハ決シテ帝政時代ノ侵略政策ニ帰ルコトナク一ニ平和ヲ念トスルモノニシテ国民中ニハ今猶日本ニ対シ悪感ヲ抱クモノナキニアラサルモ労働当局ハ之ヲ忘却セシメムコトニ努力シツツアリト述ヘタルニ依リ本使ハ日本ニ於テモ他国ニ対シ侵略的野心ヲ藏スルカ如キコトナキ理由ヲ説明シ且兩國ノ国交ハ不幸ニシテ過去八年間杜絶シタル為我國民中ニハ貴國ノ事情ニ通セサルモノアルヲ以テ本使ハ此点ニ留意シ連邦ノ真情ヲ照会スルニ努力スル考ナリ然シ日露兩國親善ノ要訣ハ互ニ他方ノ制度文物ヲ尊重スルコトニ依リ共存共栄ノ途ヲ発見スベキモノナリト思考スル旨ヲ述ヘタルニ「ルイコフ」ハ全然本使ト其感ヲ同シクスル旨肯定セリ

四三七 八月四日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

領事館ノ相互開設ニツキ取極メ成立ノ件
第三一〇号 （八月五日接受）

貴電第二〇四号ニ関シ
領事館開設地ニ関シテハ双方申出全体ニ就キ諒解成リタル結果今回当国外務部トノ間ニ口上書ノ交換ニ依リ「ソヴィ

着任ノ挨拶ニルイコフヲ訪問シ懇談セシ模様
報告ノ件

第二九〇号 （七月二十四日接受）

七月二十二日敬意ヲ表スル為連邦人民委員會議々長（他國ノ総理ニ相当）「ルイコフ」氏ヲ「クレムリン」宮殿ニ訪問シタルニ背広ニ頭髪ヲ無造作ニ伸ハシタル同氏ハ本使ヲ其書齋ニ招キ酒煙草ヲススル等慰懃ニ約三十分間談話ヲ交換シタルカ同氏ハ先ツ「コップ」大使本邦着任ノ際日本国官民ノ表示シタル好意ヲ感謝シタル後北京条約ニ依リ設定セラレタル兩國ノ友好關係ハ今後益々鞏固ヲ加フヘク殊ニ兩國力接壤國タルノ事實ハ兩國ノ經濟的接近ニ資スル処大ナルヘク労働連邦ハ独リ北樺太ニ於ケル利權ノミナラス大陸ニ於テモ日本資本ノ活動ヲ歡迎スルモノナリト述ヘタルニ依リ本使ハ兩國ノ經濟的接近ハ日本国民ニ於テモ等シク切望スル処ニシテ北樺太利權契約ノ円満ナル締結ヲ見タル上日本企業家ハ漸次西比利亞方面ニ活動ヲ試ムルコトトナルヘシト思考スル旨挨拶シタルニ「ルイコフ」ハ北樺太ニ於ケル利權契約締結ノ交渉問題ニ関シテハ既ニ本使着任前交渉ノ準備ヲ為ス様關係官庁ニ命シ置キタレハ事務上ノ

エツト」連邦政府ハ莫斯科、浦潮、哈府、亜港、「オハ」、「ペトロパヴロフスク」、「ブラゴヴェシチェンスク」、尼港及「オデッサ」ニ日本領事館開設方ニ又日本政府ハ東京、大阪、神戸、横浜、函館、敦賀、長崎、京城及大連ニ露國領事館開設方ニ異議ナキコト但右予定地ハ将来双方政府間ノ合意ニ依リ變更セラルルコトアルヘキコトヲ取極メタリ口上書写土田官補ニ託送ス

四三八 十一月十四日（着） 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

在日領事館ノ開設予定地ノ變更ニツキソ連側
ヨリ提案ノ件

第四八四号

十一日外務部日本主任官「コレスニコフ」來訪上局ノ命ニ依ル趣ヲ以テ左ノ事項ニ付帝國政府ノ同意ヲ得タキ旨申出テタリ御回示ヲ請フ

(一)大阪及神戸ニ領事館ヲ開設シ大阪ニハ Eids（目下「タッス」通信所内國通信部勤務）ヲ神戸ニハ前記「コレスニコフ」ヲ夫々領事ニ任命ノ件

(二)横浜ニ開設ノ答ナル領事館ヲ小樽ニ變更シ同地駐在領事

ニ Vasilieff (外務部官吏極東課勤務)ヲ任命ノ件
變更ノ理由、横浜ハ日露貿易上重大ナラス小樽商業會議所
等ヨリ請願アリ小樽ハ露領漁業ニ密接ナル關係アリ

尚日本側ニ於テモ現ニ外国領事ノ駐在シ居ル地点ニ日本領
事館ノ予定地ヲ變更シ得ルコト

(三)釜山ニ領事館開設ノ件

理由、同地ハ朝鮮鐵道ノ終点ニ當リ鐵道連絡協定成立ノ上
ハ日本ト大陸トノ連絡地点トシテ重要ナリ

之カ交換条件トシテ日本モ連邦内ノ希望スル地点ニ領事館
ヲ開設シ得ルコト

領事ノ任命ニ付テハ同意ヲ求ムルノ要ナキニ依リ前記(一)及
(二)ノ人選ニ付テハ其ノ意味ヲ以テ別ニ挨拶セサル方然ル可
シト思考スルモ口頭ニテモ同意ヲ与フルトセハ今後我領事
ニ付テモ任命前口頭ニテ先方ニ通知スルノ要アル可シ右ノ
点如何ニスヘキヤ併セテ御回訓ヲ乞フ尚其ノ他ノ点ニ付テ
ハ後日ノ為文書ヲ以テ回答スル積ナリ

2 ソ連邦通商代表部設置問題

京ニ「ソヴィエツト」大使館ヲ設置スルコトナリ若シ此
種代表者ヲ派遣セサレハ折角ノ国交回復モ其意味ヲ為サス
日露兩國ノ為少シモ利益トナラサルヲ以テ「ヤンソン」ノ
如キモノヲ特派スル次第ノ処其資格ハ「アタシエ、コンメ
ルシアール」ヲ利トスルモ其職務ハ例ヘハ日本ノ在外商務
官トハ全然其趣ヲ異ニシ實際取引ノ衝ニ當ルモノナルカ故
ニ其部員等モ比較的多数ニ上ルハ已ヲ得ス又将来兩國間ノ
通商増大セハ独立ノ通商代表部ヲ置キ政府部員ノ外政府ノ
間接經營ニ係ル特許会社代表者ヲモ派遣シ大規模ノモノト
スルコトアルヤモ計リ難キモノハ他日ノ話ニテ差当リ商務
官名義ニテ之ニ必要ノ人員ヲ付スル考ヘナリト言ヘリ

右ニ對シ本官ハ貴說御尤モニシテ帝國政府モ日露兩國間ノ
通商促進ヲ希望シ居ルハ本官ノ之迄承知セル限り疑ヲ容レ
サル処ナルモ他方国交回復ト共ニ一時ニ多数ノ「ソヴィエ
ツト」大使館員若ハ通商代表部員ノ乗り込ムハ少シク考ヘ
モノニテ或ハ之レカ為メ無用ノ不安ヲ与ヘ折角良好ナル日
本對露輿論ニ對シ動搖ヲ与ヘストモ限ラス故ニ「ヤンソ
ン」一行ノ出発ニ關シテモ予メ了解ヲ得置ク方双方ノ為利
益ト思考スル旨ヲ述ヘ暗ニ在支公使宛貴電第一三六号末段

四三九 四月二十一日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ヤンソンノ通商代表トシテノ資格及ビ通商代
表部員ノ数等ノ疑問ニ關シチチェリンヨリ回
答ノ件

第六三号

(四月二十二日接受)

二十日「チチェリン」ニ面会ノ序ヲ以テ貴電第四二号「ヤ
ンソン」任命ノ資格ヲ尋ネ且果シテ通商代表ニ任命セラレ
タルモノトセハ帝國政府ハ予メ其資格特權並外交官ノ特權
ヲ受クヘキ代表部員数等ニ就キ協定ヲ遂ケタキ希望ニ付同
氏一行本邦入国査証ニ關シテモ本官ハ一応本國政府ノ指令
ヲ仰キタル上ニアラサレハ之ヲ付与スル權限ヲ有セス右ニ
就キ後日ノ誤解ヲ避クル為同氏及同氏一行ノ資格人員等本
官迄通知アリタク然ラハ直ニ本國政府ヘ移牒スヘシト申入
レタル処「チ」氏ハ之ニ對シ「ヤンソン」ハ「アタシエ、
コンメルシアール」トシテ東京ニ赴クコトハ承知シ居ルモ
猶一応關係官庁ニ問合ノ上其資格人員等ニ就キ回答スヘシ
ト答ヘ且「ソヴィエツト」政府ハ外国貿易ヲ國營トスル關
係上政府ノ貿易代表者ヲ外国ニ派遣スルノ必要アリ今回東

ノ意味ヲ匂ハセ置キタリ尚「チ」ノ漏シタル処ニ依レハ
「ヤンソン」ノ滞在ハ三、四ヶ月ニテ一応本邦実業家トノ
關係ヲ付ケタル後帰國スルモノノ如シ

四四〇 五月六日

在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連貿易代表部ノ本邦開設ニ對スル政府意見
請訓ノ件

別電

五月六日在ソ連邦佐藤臨時代理大使宛幣原外務
大臣電報第九五号

貿易代表部開設ニ關スルソ連邦極東課長覺書

第九四号

(五月七日接受)

貴電第四二号ニ關シ

本五日極東課長ハ別電第九五号ノ通り覺書ヲ本官ニ手交シ
帝國政府ニ於テ右覺書記載ノ職務及特權ヲ有スル貿易代表
部ヲ開設スルコトニ御異存ナキニ於テハ「ヤンソン」以下
部長及部員ヲ任命シ速ニ本邦ニ赴任セシメタキ旨申添ヘタ
ルニ付本官ハ他國ノ実例ヲ引用シ貿易代表部ノ開設及其ノ
職務人員特權等ニ關シテハ通商條約又ハ協定中ニ特別ノ規
定ヲ設クルヲ普通トセスヤト反問セシ処先方ハ日露經濟關